

# こころ



THCU Chronicle *Heart* No.25 Spring 2018

第25号



## 特集 開設目前の新学部

平成30年4月に2つの新学部を開設する構想については、平成29年春発行の本誌第23号にて既報のとおりです。その後、国の設置認可手続き等が完了したことから予定どおり本年4月に開設することが正式に決定されました。本号では、千葉・和歌山の新学部の設置準備状況を2ページ目でご紹介するとともに、特に施設が未整備であった和歌山看護学部雄湊キャンパスの改修状況を表紙写真でご覧いただきます。(改修状況はいずれも平成30年1月末現在です。)

- 2 ・特集:開設目前の新学部  
千葉看護学部の開設に向けた歩み  
和歌山看護学部の開設に向けた施設造り
- 3 ・東京医療保健大学ビジョンについて
- 4 ・品川区立第三日野小学校の校内研修(一次救命措置)を実施しました  
・看護学科FD委員会主催「ヨガ・マインドフルネス研修」の報告  
医療保健学部 看護学科
- 5 ・平成29年度 医療栄養学科卒業研究発表会  
医療保健学部 医療栄養学科
- 6 ・2017年度 医療情報学科ゼミ発表会  
・インドネシア人看護師候補者訪問  
医療保健学部 医療情報学科
- 7 ・患者さんへの癒し  
・災害看護実習および卒業研究発表会を終えて  
東が丘・立川看護学部 看護学科
- 8 ・修士生活、気分転換で前向きに  
・安全な歯科医療の普及を目指して  
大学院 医療保健学研究科
- 9 ・24時間体制で分娩介助実習に取り組んでいます!!  
・第3回日本NP学会学術集會に参加して  
大学院 看護学研究科
- 10 ・平成30年度オープンキャンパス等日程
- 11 ・女子バスケットボール部が大学日本一の栄誉  
・国際交流
- 12 ・Topics

CONTENTS  
目次

## 千葉看護学部の開設に向けた歩み

千葉看護学部は平成30年4月に初めての新生を迎え入れます。本事業はJCHO：独立行政法人地域医療推進機構が公募した「看護大学の設置・運営事業」を一昨年7月に本学が落札、同年11月に協働事業協定書調印を挙げて本格的に始動しました。その後、教員の採用と平行して文部科学省への各種の申請を行い、以下のとおり全ての項目において認可を受領。構想から10ヶ月で申請を終え、1年半程で認可を受領するなど、まさに“駆け足”で進めて参りました。

- ・平成29年6月30日：「収容定員増に係る学則変更認可申請」の認可を受領
- ・平成29年8月31日：「保健師助産師看護師法第19条第1号及び第21条第1号に定める学校」の指定を受領
- ・平成29年12月4日：教職課程（免許状の種類：養護教諭一種免許状）の認定通知を受領

一方、学生募集に関しては、昨年11月より推薦試験・一般試験等を順次実施いたしました。各試験とも募集人数を大幅に超える多数の生徒の受験があり、学部定員100名をやや上回る第一期の新生

が入学予定です。その新生を迎える施設の準備も着実に進んでおり、JR西船橋駅から徒歩12分の地に、多数の教室・実習室・学生ラウンジ・図書館・体育館・食堂・学生寮等を備えた“船橋キャンパス”ができます。また、学生を迎える教員に対しては昨年12月に専任教員オリエンテーションを実施。田村理事長、木村学長、田村副理事、宮本先生（千葉看護学部学部長就任予定）より、大学教育の意義、本学の新ビジョン、千葉看護学部設置に至るまでの経緯、および千葉看護学部の方針・活動の狙い等について説明があり、40名弱の専任教員を含む教職員全員が、千葉看護学部の発展に向け進むべき方向を確りと認識いたしました。以上により4月から新学部をスタートさせるための全ての準備が整いつつあります。今後、東京医療保健大学の一員として、その名に恥じぬよう教職員一丸となって学部運営に邁進して参る所存ですので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

千葉看護学部設置準備室

## 和歌山看護学部の開設に向けた施設造り

和歌山看護学部の開設準備状況及び経緯等には、前述の千葉看護学部の場合と共通する部分が多い。これは、同一年度に2つの学部を開設することになったことに起因している。開設準備の初期段階から同じ部屋で共同作業を行うなど、共通の認識の下で諸課題に対応してきたという経緯を物語っている。

それにしても、やはり地域性の違いを筆頭に和歌山看護学部における特徴的ないくつかの事柄を記してみたい。まず、和歌山看護学部の設置（開設）構想は現在から遡って数年前に和歌山県知事からの強い働き掛けがあったとともに和歌山市も足並みを揃えて要望を出されてきたことが発端である。この間、さまざまな紆余曲折を経て平成28年の初頭には、大筋での方向性が合意に至り、本学としても新学部設置に向けて本格的な検討を開始することとなった。同年の5月30日には、和歌山県、和歌山市、日本赤十字社和歌山医療センター及び本学の4者間において「学校法人青葉学園 東京医療保健大学和歌山看護学部（仮称）の設置に係る協定書」への調印が行われ、4者の緊密な連携協力の下で平成30年4月、和歌山市内に看護学部の設置を目指すこととなった。

また、同時期には前述した千葉看護学部設置構想が浮上し、その対応を兼ねて和歌山看護学部設置準備担当者と千葉看護学部の設置準備担当者とが連携して取り組みを行うこととなり、平成29年3月末までの期間には両方の担当者が一部屋で（和歌山看護学部設置準備室については、東京と和歌山の2か所で活動）共に新学部のある

べき姿を議論しながら進めてきたことに特徴がある。

すなわち、学部としてのコンセプトをどう考えるか、教育課程（カリキュラム）をどのように設定するか、教員組織・事務組織等の構成はどうするのか、認可申請書類の記載内容の整合性を図ること、認可後の学生募集活動、進学説明会や病院見学会などの開催、各種入学試験の実施、合否判定、合格発表、新入学生の受け入れ準備等等、多岐にわたる課題の処理を終え、あるいは現在進行形の状況にある。

また、和歌山看護学部の1～2年次生の学び舎となるキャンパスの施設は、平成29年3月末で閉校した旧和歌山市立雄湊小学校の校舎を有効活用することを基本としたが、大学の校舎としてふさわしい環境を確保するためにはある程度の改修工事が必要であり昨年の夏場から工事を鋭意進め、本誌の発行予定と同じ3月を目途に完成する計画としている。本稿の執筆時点（1月末）の工事の進捗状況については、表紙の写真をご覧いただければ多少なりともご想像いただけるかと思う。

いずれにしても平成30年4月8日（日）には、第一回の入学式を挙げる予定であるが、新入学生を無事に迎え入れられるよう、更なる準備を怠りなく進めて行きたい。

和歌山看護学部設置準備室

# 東京医療保健大学ビジョンについて

東京医療保健大学は平成17年度の創設から13年目を迎えます。これから先も本学の建学の精神である「科学技術に基づく正確な医療保健の学問的教育・研究」を行い、その成果を人類の健康と幸福のために提供できる、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を持った医療人と研究者を育てることを目指してまいります。

これらのことを念頭に、今後10年に向けて東京医療保健大学が進むべき方向について検討し、これからも建学の精神及び教育理念に基づき、特色ある教育・研究活動を展開していくための「明るく夢と活力に満ちた「東京医療保健大学ビジョン」」を以下のとおり策定しました。現在、ビジョンに示す6つの各項目に沿って具体的に取り組みを進めています。(企画部)

## 東京医療保健大学ビジョン

東京医療保健大学は、「いのち」「思いやり」「絆」「愛」を尊重する心を持った医療人を育成するため、2005年に誕生しました。本学は建学の精神に則り、科学技術の発達やグローバル化など、急激に変化する社会の期待に応え続けて行くことを目指し、「東京医療保健大学ビジョン」を定めました。

東京医療保健大学は「多様な価値観を尊重し、一步先を歩み続ける開かれた大学」を目指し、全学一丸となって教育・研究・社会貢献に取り組み、明るい未来の医療保健を創造します。

1. 東京医療保健大学は、わが国では最大規模の医療保健分野の大学として、将来にわたりこの分野の発展を支える責任を自覚し、全学で協働した先進的な教育・研究・社会貢献活動を通じ、一步先の医療保健を創造します。

本学は、社会のニーズに対応した規模拡大に伴って医療保健分野における責任が大きくなってきたことを自覚し、各学部、研究科の個性を生かしつつ協働して、先進的な発想のもと一步先を歩み続け、世界の医療保健をリードできる医療人・研究者を育成すべく、高度な教育と研究、社会貢献活動を行います。

2. 東京医療保健大学は、変化し続ける社会を見据え、現在、そして未来の社会に必要とされる、豊かな教養と科学的な専門的知識・技術を有し、寛容で心温かい医療人を育成し続けます。

変化し続けグローバル化が進む社会にあって、医療人には、年齢・性別・国籍・人種・宗教・職業等の背景にかかわらず、多様な価値観を受け止められる資質が求められます。本学は、未来を見据え、学生一人一人の可能性を最大限伸ばし、豊かな教養と健全な倫理観のもと、高度な専門的知識・技術とICTを駆使する能力を備え、多職種と協働できる心温かい医療人を育成し、社会のニーズに応え続けます。

3. 東京医療保健大学は、すべての医療人に対し生涯を通じ最新の進歩・変化について学びの機会を提供し、わが国の医療保健の質向上に貢献します。

医療人は、生涯を通じて学ぶ必要があります。このため、本学は、多様化する社会の変化に応じ開かれた大学として、本学の卒業生・修了生に限らず、すべての医療人が最先端の知識・技術を学び続けられるよう幅広い支援体制を構築し、わが国の医療保健全体の質向上に貢献します。

4. 東京医療保健大学は、高度化・複雑化する医療保健分野を支え更に発展させるため、現在および未来の社会が抱える諸課題を克服し、世界の医療保健をリードできるよう、先進的な研究活動を推進します。

急速に進歩する医療や科学技術は、益々高度化・複雑化し、人類に多くの可能性をもたらすと同時に、新たな課題も投げかけています。本学は大学院研究科を中心とした全学的取組により既存の課題と新たな課題を克服し、明るい未来の医療保健分野を切り開くことができるよう、先進的研究を推し進めます。

5. 東京医療保健大学は、学部・大学院の教育・研究成果を生かし、地域社会との共生が推進できるよう、医療・保健・福祉分野における地域支援・協働の中核となり、積極的に社会に貢献します。

本学は、色々な地域に暮らす人々を支える拠点としての機能を果たす、開かれた大学でありたいと考えています。このため、地域が必要としている、あるいは地域から期待されている連携・支援・協働を積極的に実践するなど、地域に密着した社会貢献活動を通じ、地域の発展、課題解決に寄与して行きます。

6. 東京医療保健大学は、多文化が共存する大学・キャンパス創りを進めます。教職員は大学内外の多様な価値観との交流を大切にしつつ常に自己研鑽に励み、一步先を歩み続ける開かれた大学を実現します。

本学は、国際化が進む社会にあって多文化が共存し一步先を歩み続ける開かれた大学を目指しています。教職員は一步先を歩む医療人・研究者を育成することの責任を自覚し、常に自らを啓発し成長できるよう努力すると共に、いのち、思いやり、絆、愛の心を涵養し、心の通う大学・キャンパスを実現します。



## 品川区立第三日野小学校の 校内研修（一次救命措置）を実施しました

第三日野小学校は、東五反田の池田山公園に隣接した学校です。本学からは徒歩3分、いわば“お隣さん同士”の小学校で、以前から、小学生が本学の体育館を訪れたり、学生の地域看護学実習をお引き受け頂いたりしていました。このような関係から一次救命措置の校内研修に関するご依頼を頂き、本年度は臨床看護学急性期領域と養護領域が講師をお引き受けしました。

研修会では、「水泳指導中に児童が溺れた」というケースと、「校庭で突然倒れた」というケースについて、事故発生時から救急車が到着するまでの対応についてシミュレーションを考え、役割分担をしてロールプレイをする中で、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの装着などを行いました。今後も、“地域の小学校と大学”としてお互いに貢献し合い、豊かな関係を築いていきたいと考えています。

医療保健学部 看護学科 教授 すなむら きょうこ 砂村 京子

名称：BLS（一次救命措置）研修会  
期日：平成29年6月6日15:30～16:30  
場所：五反田本館 G303実習室  
対象：第三日野小学校教職員26名  
担当：臨床看護学急性期領域・養護領域



一次救命措置のグループ演習

## 看護学科FD委員会主催 「ヨガ・マインドフルネス研修」の報告

平成30年1月12日(金)16:30～18:00(90分間)五反田キャンパスにて、看護学科FD委員会主催「ヨガ・マインドフルネス研修」を開催しました。

本研修は、看護学教員として日々研究活動や教育活動、社会貢献活動などに取り組み、多忙を極める中で、改めて看護学教員である自己の心身の安全や健康に向き合う機会を設けることを目的として実施されました。内容は、世田谷キャンパスにおいてヨガ研修を担当されている加藤恵美子氏を招いてのリラックスヨガ、本学科精神看護学領域、秋山美紀准教授によるマインドフルネスの講義となる、二部構成で行いました。参加者は12人でした。

マインドフルネスとは、“自分の心の中で何が起きているのかを、判断を加えず十分に認識すること”、“今、ここ”に集中する、“心を開放して決めつけない態度で「今」に集中する”などと定義されており、効果として慢性疼痛、不安やうつ、仕事や家庭のストレス軽減などがあります。また、看護師がマインドフルネスを実践する効果として、“看護職の精神的健康が高まる”、“同僚や患者との関係が良くなる”、“看護職の専門的な技能・行動に良い影響を与える”などが明らかとされています。

今回マインドフルネスの講義として、一粒のレーズンを見つめ集中する中で、自分自身の中で起きている心やからだの感覚に意識

を向けるレーズンエクササイズと、慈悲の瞑想を行いました。

研修後のアンケート結果では、「ヨガを久しぶりにやってみて、身体がとても楽になりました」、「気持ちがとても穏やかになりました」、「普段自分の心身を見つめること、他者と同時に、自分に対しても思いやりを持ちメンテナンスする時間を持っていないことに気が付きました」、「体験型の研修は心と身体の気づきが得やすいので、ぜひ定期的に行って頂けると嬉しいです」などがあり、研修を通じて自らの精神的健康に向き合う動機づけとなっていたと考えられます。一方、開始時間が16:30からと遅い時間を設定していたため、この点に関して「もう少し早い方が参加しやすい」、「終了時間は17時まで設定するとより参加しやすいのではないか」などの意見が聞かれ、その他に、「(参加者が女性だけだったため)男性職員も参加しやすいように、積極的に働きかける必要があったのではないか」との意見が寄せられました。

研修を通じて、参加者の意見から心身のポジティブな変化や、定期的な開催を希望する反応が聞かれたため、今後も継続的な実施を検討していきたいと思えます。

医療保健学部 看護学科 助教 いとう まり 伊東 真理

## 平成29年度 医療栄養学科卒業研究発表会

### 卒業研究発表題目一覧

医療栄養学科では、29年度卒業研究の口頭発表会を11月6日(月)に世田谷キャンパスで開催いたしました。意欲ある勤勉な学生が、真摯に研究に取り組んだ成果として、以下の演題を発表しました。発表者の4年生や聴講者の3年生で、活発な討論が行われ、充実した発表会となりました。

- **五百蔵良研究室**  
『果実から野生酵母の分離と食パン製造への試み』
- **大道公秀研究室**  
『古代食解明ための食品中C/N比分析とステロール分析』  
『食品のアクリルアミド分析と課題・提案』  
『汚染源としてのヒトと環境微生物の細菌検査』
- **北島幸枝研究室**  
『血液透析患者における下腿周囲長の測定と評価について』
- **齋藤さな恵研究室**  
『幼児とその保護者に対する高野豆腐の摂取状況調査と幼児向けおやつ の検討』
- **西念幸江研究室**  
『低たんぱく質パンの調製方法の検討』
- **清水雅富研究室**  
『食事由来脂肪酸摂取比率の違いによる細胞毒性への影響について』
- **鈴木礼子研究室**  
『未就学児のリン推定摂取量 ～秤量法による評価～』  
『未就学児のエネルギー産生栄養素バランス (PFCバランス) について～秤量法による横断的調査～』
- **豊田英敏研究室**  
『子どもの心と体を育む学校給食、栄養教諭の実態』
- **細田明美研究室**  
『中高生の食環境が口腔内環境に及ぼす影響について』
- **三舟隆之研究室**  
『古代における豉の復元』  
『『延喜式』の酢の復元』

(指導教員五十音順)

### 学生による学会発表 (研究・実践報告)

学生が研究・実践活動を外部へ発表した内容を紹介します。

- **第77回 日本分析化学会 分析化学討論会**  
平成29年5月28日 龍谷大学深草学舎  
・『古代食解明を目的とした調理後炭化物の理化学分析 (第2報)』 種あやめ、中里真緒、山本鈴夏、奥脇早紀、小林孝洋 (大道研究室)
- **第64回 日本栄養改善学会学術総会**  
平成29年9月14日(木) 徳島: アステイ徳島  
・『未就学児のエネルギー産生栄養素バランスについて～秤量法による横断的調査』  
富松里佳子、高堀真紀子 (鈴木研究室)  
・『未就学児のリン推定摂取量 ～秤量法による横断的調査～』  
堀真紀子、富松里佳子 (鈴木研究室)
- **せたがや福祉区民学会 第9回大会**  
平成29年10月1日 昭和女子大学  
・『スマートライフプロジェクト やめよう歩きたばこ』  
齊藤友也、鈴木麻由、中土優佳、中村美月  
・『健康を招き入れよう! 豪徳寺ウォーキング!!』  
野崎竣也、新城睦月、高橋奈瑠海、田邊晴葵  
・『玉川ボランティアビューローでのバザーにおける軽食提供2017』 橋本沙耶華、高堀真紀子、富松里香子  
(学会開催日順、学生名と研究室名のみ表示、下線は既卒生)

### 特別講演: 古代食研究 奈良文化研究所 小田裕樹氏

平成29年12月18日(月)本学世田谷キャンパスにて独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所都城発掘調査部 考古第2研究室研究員の小田裕樹氏による特別講義が行われた。テーマは「食器・食具からみた日本古代の食文化」で、古代の食器について古墳時代から奈良時代の食器には大きな変化があり、それが東アジアの儀礼



の変化の影響によるという刺激的な講演であった。宮内庁などの研究技官を含む、他研究機関より多数の方々が、本学の学生達や教員とともに聴講し、実り多い特別講演会となりました。

## 学生献立 | 東京都福祉保健局 HP に紹介

平成29年度東京都食生活改善普及運動の企画に管理栄養士養成校関係団体の1つとして協力し『野菜たっぷりバランスランチ・弁当メニュー』に提案したランチメニュー事業が東京都福祉保健局HPに紹介されました。本年度は2つも掲載、採用されました。

平成29年9月に都庁1階アートワーク台座で写真展示で紹介されました。メニューのパネル展示が、9月8日~14日まで、都庁第一本庁舎1階アートワーク台座にて行われ、多くの地域の方々にご覧いただくことができました。



時短! 野菜たっぷりカラフル弁当



夏バテ解消野菜たっぷりランチ

## 2017年度 医療情報学科ゼミ発表会

医療情報学科では、3年次生のゼミでの成果発表のため、2017年12月11日、国立オリンピック記念青少年総合センターにて医療情報学科ゼミ発表会を開催いたしました。今回は、小杉尚子先生ゼミと柴野荘一先生ゼミの発表時の様子をご紹介します。

## 小杉尚子先生ゼミ

小杉ゼミでは、8人の学生が3つのチームに分かれて、以下のテーマで研究を行いました。

1. リラックス効果をもたらす刺激に関する調査研究
2. 幼児期の音楽経験と現在の性格の関連について
3. 作業中に聞く音楽の種類による作業効率の違いに関する研究

みんな、ゼミの時間以外にも、何度も集まったりLINEで話し合ったりしながら熱心に研究を進めました。発表会では、これらの研究成果を、今後の自分達の就活や資格取得の勉強などに活かすためのアドバイスも盛り込みました。発表会後の反省会では、チームワークの大切さや、スケジュール管理等を学べて良かったという感想

や、何回も発表練習したので、本番はほとんど緊張しませんでしたという感想が聞かれ、みんな、自分自身の成長を実感したようです。

医療保健学部 医療情報学科 准教授 小杉 尚子



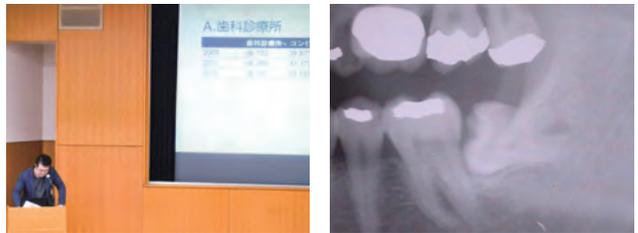
## 柴野荘一先生ゼミ

国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、2017年12月11日に3年次生による医療情報ゼミ発表会が開催されました。学生さんたちがゼミでの調査・研究を、興味をもって楽しく行えることを第一に考え、発表テーマはそれぞれ自主的に設定してもらいました。そのため、歯科医療・診療情報管理士の資格や業務・医療訴訟の判例についてなど、発表テーマは多岐にわたりました。また、個人での発表も多く、学生さんとの調査やディスカッションが慌しくなってしまった部分もありましたが、そのような中でも学生さんたちは皆、積極的に取り組んでくれ、自分にとっても学生さんたちとの活動は有意義なものでした。

このゼミ発表会の経験が、学生さんたちの今後において、「自主

的に課題をとらえ解決していく」ことに少しでもつながれば幸いです。

医療保健学部 医療情報学科 講師 柴野 荘一



## インドネシア人看護師候補者訪問

2017年10月9日、インドネシアとの経済連携協定（EPA）に基づく看護師候補者27名が、世田谷キャンパスに来学され、医療情報学科、医療栄養学科との合同特別講義・演習を受講されました。

本訪問では、「3Dプリンタ」、「バーチャルリアリティ」、「患者ロボット」、「病院食」の4テーマを掲げ、講義・演習が行われました。グループワークも実施され、ここではいくつかのテーマに基づいた自己紹介および将来像の共有によって本学学生23名との交流を図りました。そののち、石原学科長より、各受講者へ修了証書が授与されました。

昨年度と同様、演習の一つとして、バーチャルリアリティ（VR）を用いた体内フライスルー体験を実施しました。これは専用のアプリを起動したスマートフォンをVRゴーグルに装着し、これを覗き込むと、体内に入り込んでいく立体映像が映し出されるというもので

す。体験者が向きを変化させると、それに応じて映し出される映像が変化します。受講者はゲーム感覚で楽しく体験できた様子で、「医療とVRの結びつき」という新たな視点が得られたことと思います。



演習の様子

VRゴーグルの仕組み

## 患者さんへの癒し

本学には、患者さんへの癒しが上手な学生がたくさん在籍するクラブがあります。クラブ「ひいりんぐぼと」です。その名前のおり「癒しのツボ」であり、アロマセラピーに関する知識を深め、技術を高めることを趣旨とした楽しいクラブです。

本学の建学の精神である“寛容と温かみのある人間性を尊重する精神”に基づき、地域への社会貢献を目的として、2012年に同好会として発足しました。その後、学生のリーダーシップとボランティア活動の実践が認められ、2015年度にサークルに、2017年度にはクラブに昇格しています。現在は東が丘・立川キャンパスだけでなく、五反田キャンパス、世田谷キャンパスの学生達も入部し、男子学生30%、女子学生70%で構成されています。メンバーは皆、ボランティア



災害医療センターでのボランティア後の笑顔が輝かしい平塚愛実さん  
(東が丘・立川看護学部看護学科2年次生)

精神が高く、人々に心理的な安心感を与えることがとても上手です。

主な活動は、アロマトリートメントの技術トレーニングや精油効能の勉強会、毎月1回のボランティア活動です。東日本大震災での被災者・避難者の方々を始めとして、実習先である東京医療センターの病棟患者様、医愛祭での一般市民

の方々、デイサービスセンターの利用者様、ひがしが丘保健室の来場者様、目黒区立知的障害者支援施設の方々、近隣の重症心身障害児の家族会の方々を対象に活動しております。

今年度より、災害看護学コースの主な実習先である災害医療センターの入院患者様への病棟ボランティアを開始しました。当日は看護部長さんはじめ病棟スタッフの皆さまが温かく学生を迎えてくださり、対象患者様にハンドアロマトリートメントによる癒しを体験していただきました。気分が優れなかった患者さんに「気持ち良くて気分がよくなった」、ベッドから起きることのできない患者様にも「いい香りですリフレッシュした」「手が温かくなった」とリラックスしていただくことができました。メンバーは、ボランティア活動を通して実際に患者さんとコミュニケーションをとり、人々に癒しを提供させていただきながら病棟内の看護師の動きを学ぶなど、様々な体験をしています。

このクラブに所属する学生は、実習中にも受け持ちの産後のお母様や患者様にアロマトリートメントを提供させていただく機会があり、とても喜ばれています。卒業後は看護師として患者さんの癒しに役立つことができると思います。一人一人が患者さんに癒しを提供できる医療従事者として育ててほしいと心から願いつつ、学生の活動を陰ながら支えております。

東が丘・立川看護学部 母性看護学  
准教授 朝澤 恭子 (ひいりんぐぼと顧問)

## 災害看護実習および卒業研究発表会を終えて

災害看護学コース4年生の「災害看護学実習」が終了しました。この実習は本学でも初めての実習であり、災害看護コースの特徴の一つになっています。トリアージ、外傷初期治療・看護、災害体験などが盛り込まれ、災害医療センターのDMATメンバーから全面協力を得られたことで、臨場感のある実習になりました。この実習を通して学生は、災害医療における看護職の役割機能について理解することができたはずで

す。また11月27日には、卒業研究の発表会を行いました。3年次の12

表1 各卒業研究グループのテーマ一覧

DMATに登録する看護師の特徴とSOC (Sense of Coherence) との関連
災害がもたらす精神的影響と対処行動および支援についての考察 — 精神障がい者、高齢者および支援者に焦点をあてて —
看護師が諸外国で災害支援を行う際に必要な文化的配慮 4宗教の視点での考察
首都直下型地震が予測される地域に住む妊婦の夫の地震に対する備えの実態と学習ニーズ
全国の重症心身障がい児(者)施設における防災対策の現状と課題
大規模災害発生時の高齢者の避難行動および避難生活に対する備えの実態 — 立川市在住のデイサービス利用者への質問紙調査 —
首都直下地震に備える在宅高齢者の防災意識と防災行動の実態調査
大規模自然災害発生時における避難所での保健師の感染予防活動実施に至る思考のプロセス
災害ボランティア活動時に活用した看護学生に特徴的な能力や資質の検討

月に9グループに分かれてから1年間、災害に関連するテーマ(表1参照)に取り組み、その成果を発表しました。当日は、3年生も同席し、学会形式で発表会を行いました。どのグループも、文献レビューやインタビュー、アンケート調査など様々なアプローチで、興味深いテーマに取り組んでいました。発表に使われたスライドには、図やアニメーションがうまく利用されており、見ている人の理解を容易にするための工夫が見られました。内容レベルもとても高く、既に学会発表を予定しているグループもあります。学生同士の質疑応答も予想以上に活発に行われ、時間が足りないほどでした。発表を聞いていた3年生のモチベーションも上がったようですから、来年も期待ができそうです。

東が丘・立川看護学部 看護学科  
災害看護学コース 准教授 高木 晴良



災害看護学実習の様子



卒業研究発表会の様子

修士生活、気分転換で前向きに

六白金星は、ダイヤモンドのような硬質な鉱石を示すと、どこかの占いの本を読んだことがあります。鉱石が採掘され、精錬されると光が増すように、世の中の荒波にもまれ、苦労を重ねれば重ねるほど、輝き出し実力を発揮するそうなのです。六白金星の私は、ダイヤモンドの言葉を見て、有頂天になりました。同時に自分のこれまでの人生を振り返ると、荒波を好むように、平坦な道よりも少し険しい道をあえて選択し、ここまで来たように思います。大学院での勉強もその一つです。入学してからは、仕事をしながら、大学院の講義、課題、プレゼンテーションの準備、研究など、一度に多くのことをこなすために時間に追われ、毎日が瞬間的に終わるような感覚でした。そして、知識のない自分に愕然とし、なかなか理解できない自分に怒りすら覚えることもありました。「何故、大学院で勉



大学院入学時の懇親会にて 谷本教授と秋山准教授を囲んで看護実践開発学領域の仲間と。本人は後列左側

強するなんて、あえて大変なことを選んだのだろうか？」ということもありました。でも、ふと客観的に自分を見てみると、なぜかその大変さも楽しんでいる自分がいるのです。そのように思わせてくれる理由のひとつが、周りに頼もしい仲間や、支えてくれている諸先生方がいるからだと思うのです。

この大学院で新しく出会った方々は、私と同じように、もしくはそれ以上に荒波を好む方が多いようです。それぞれが仕事上の立場や役割がありながら、勉学に励んでおり、荒波を乗り越え、むしろそれを楽しんでいるようにも見えます。そのような仲間から刺激を受け、大変なこともユーモアに変えながら、お互いを励まし合い、ひとつひとつ前に進むことができています。また、研究について熱心に指導していただいている上、辛い時には優しく見守り、暖かいお言葉をかけてくださる先生方のおかげで、研究を続けることができています。

荒波や苦労は、時に人を尖らせたりするものですが、素晴らしい人たちとの出会いで、丸みを帯びることもあるのではないのでしょうか？私は、精錬の段階で、多くの素晴らしい人に出会い、それに感謝することで、先の尖った硬質な石より、丸みを帯びたダイヤモンドを目指していきたいと思います。

(と、どこかの占いの本を鵜呑みにして、凶々しく自分をダイヤモンドに例える幸せ者が、占い本よりも、論文のひとつでも読めばよかったと少し後悔する、今日この頃です。)

医療保健学研究科  
修士課程 2年 看護実践開発学領域 小堀 美香

安全な歯科医療の普及を目指して



私は今、静岡県内の一般歯科医院での勤務の傍ら、一般歯科医院での感染対策の普及を促すため、一般歯科医院向けの感染対策コンサルタント業務を行っています。この業務は一般的なものではなく、大変珍しいもので、おそらく日本で同じことをしている歯科医師はいないと思います。

始めたきっかけは些細なものでした。あるベテランの歯科医師から感染対策に関する質問に答えていたところ、「何でそんなこと知っているの?」と言われたのです。私としては「え?逆に何で知らないの?」と思ったのですが、一方で「私の知識は役に立つのかもしれない」との思いに至りました。

残念ながら日本の一般歯科医院の感染対策は非常にお粗末で、器具の洗浄・滅菌が不十分であったり、手指衛生の遵守率が低かったり、グローブの交換が正しく行われなかったり(お察しください)と、非常に危ない環境にあります。無論、感染対策は経営を圧迫することは確かです。しかし、現状を逆手に取り、対策を十分行うことで他の医院との差別化を図る歯科医院も現れています。そこにサポートの手を差し伸べることが出来るのではないかと考え、事業を開始いたしました。

と同時に、私自身も最新の知識を習得し、また研鑽を積むために当大学院への入学を決めました。学業の方は、なかなか思い通りに進まない日々ですが、諸先生方の暖かいご指導をいただき、何とか踏ん張っています。

残念ながら当大学院には歯科関係者が数人しかおりません。もしこの記事をお読みのあなたが、入学を考えていらっしゃる歯科関係者であれば大歓迎です!お待ちしております。

医療保健学研究科 博士課程 1年 感染制御学領域 河野 雅臣



普段の診療の様子

## 24時間体制で分娩介助実習に取り組んでいます!!

わが国の2016年の出生数は、統計を取り始めて以来、初めて100万人を割り込み97万6979人になりました。2017年は94万1千人(年間推計)と厳しい数字が出ています。このように出生数が減少する中でも、助産師免許を習得するためには9名以上の分娩介助の実施が必要とされています。

分娩介助件数の確保を目指した本学助産師コースの大学院1年生の基礎実習では、24時間体制で分娩介助実習に取り組んでいます。助産師学生は、国立病院機構東京医療センター、相模原病院、埼玉病院において基礎の実習をしますが、大学内や病院の宿泊施設に泊まり込み、実習を行います。実習先の病院では、実習指導者と本学教員が学生の実習を指導しています。特に夜間の実習では、学生の安全確保のために日中の実習にはない緊張感に迫られると思います。3施設共に快く学生の実習を受け入れて頂いています。

学生は大きなスーツケースを転がし、3施設の実習に向かいます。仲間と3食を共にし、体調(実習中は毎日体温計測など健康チェックを行います)を整え、学び合います。学生は携帯電話を枕元に置き、夜間待機の体制をとり、いつでも分娩の呼び出しに対応できるようにしています。教員も学生と同様に泊まり込みの体制を取っています。夜間に待機している学生は、「電話が鳴っても気が付く心配です」「ずっと起きて電話を待っていた方が良いでしょうか」など、緊張しながら分娩の呼び出しを待っています。そんな時に教員は、「夜間の実習には体力が勝負なので睡眠を取り、夜間に備えましょう」など、学生のフォローをしながら病院からの連絡を待ちます。病院から連絡が入ると、学生は教員とともに夜中、朝方の分娩介助に向かいます。実習では自然分娩介助を対象にしておりますので、24時間体制を取らなければ必要とする分娩を経験することができません。学生の分娩介助を快諾して下さいました産婦様とご家族

の協力と施設のご協力に感謝しております。

助産師は、妊婦さん・ご家族のみなさまにとって頼れる心優しい存在であり、安全で安心でわが子の誕生を喜べる環境作り、助産技術、知識が求められます。人口減少の中、人に代わる働き手としてロボット、人工知能(AI artificial intelligence)の活用が注目されていますが、AIの時代が到来しても、医療・助産・看護の全てが、器械が出来る仕事ではなく、赤ちゃんを取り上げる技術・知識・マインドは座学と丁寧な実践教育の中で培われます。

私たち助産学教員は助産師の役割を伝え「頼られる助産師」を育てています。

看護学研究科 修士課程 高度実践助産コース  
講師 平出 美栄子



実習に取り組んでいる仲間たち

## 第3回日本NP学会学術集会に参加して

2017年11月25日(土)に日本NP学会学術集会に参加して参りました。今回は千葉県成田市に新設された国際医療福祉大学成田キャンパスにて開催され、診療看護師(NP)をはじめ教員など550名の参加がありました。

大分県立看護科学大学主催の第1回、藤田保健衛生大学主催の第2回に続き、第3回目の日本NP学会学術集会となりました。メインテーマは、「医療をつなぐ診療看護師(NP)」でした。医療はチームで達成され、多くの方々のつながりが重要です。診療看護師(NP)がチームのキーパーソンになることによって、患者様・利用者様に安心安全、そして安楽な医療が提供できるとされています。さらに診療看護師(NP)はチーム医療を患者様・利用者様ととりこんだ医療と考えています。患者様・利用者様とご家族と医療者をつなぐキーパーソンでもあります。医療にかかわる人、モノ、すべてをつなぐ担い手こそが診療看護師(NP)です。そんな決意や覚悟が込められたメインテーマでした。日本NP学会学術集会は、回を重ねるごとに学会参加者数や演題数も徐々に増えており、今回は口演40題(うち本学修了生16題)、ポスター34題(うち本学修了生11題)でした。また、2名の本学修了生が座長、1名がパネルディスカッションでのパネリストを務めておりました。閉会式では大会長からは優

秀賞が3名選出され、そのうち本学修了生1名が自施設の救急外来の実態調査をテーマとした発表を行い受賞しました。修了生の研究成果の量・質のさらなる向上に向けて教員として在生に関わっていく責任を実感いたしました。

訪問診療・看護、在宅医療、診療所、病院外来、病棟、集中治療室、手術室など様々な場面で活躍し実績をあげつつある診療看護師(NP)の制度化の実現や、医療職者や患者・家族のみなさまに診療看護師(NP)を知っていただくためには、その効果について学術集会で発表しエビデンスを集めていくことが重要になってくると思います。

次々年度の日本NP学会は東京医療保健大学が主催することになっております。本学修了生、在生、教職員が一丸となって素晴らしい学術集会にしたいと思っております。第3回学術集会は私にとって、第5回学術集会の運営の一端を担うという新たな責務を実感し、不安と楽しみが混在する刺激的な学術集会となりました。

看護学研究科 修士課程 高度実践看護コース  
講師 浦中 桂一

# 平成30年度オープンキャンパス等日程

日 程	区 分	備 考
平成30年6月1日(金)	高校教員対象大学説明会 (外部施設利用)	
平成30年6月9日(土)	全学部対象ミニオープンキャンパス ～ AO・公募制対策 (五反田キャンパス)	
平成30年7月14日(土)	助産学専攻科説明会 (五反田キャンパス)	
平成30年7月22日(日)	オープンキャンパス (世田谷キャンパス)	
平成30年7月28日(土)	オープンキャンパス (国立病院機構キャンパス)	
平成30年7月29日(日)	医療情報学科 学科見学会 (世田谷キャンパス)	学科企画
平成30年8月4日(土) 平成30年8月5日(日)	オープンキャンパス (五反田キャンパス)	
平成30年8月12日(日)	オープンキャンパス (和歌山雄湊キャンパス)	
平成30年8月19日(日)	オープンキャンパス (国立病院機構立川キャンパス)	
平成30年8月25日(土)	医療栄養学科 学科体験・見学会 (世田谷キャンパス)	学科企画
	医療情報学科 学科見学会 (世田谷キャンパス)	学科企画
平成30年8月26日(日)	オープンキャンパス (船橋キャンパス)	
平成30年10月14日(日)	東が丘・立川看護学部見学会 (国立病院機構キャンパス)	学部企画
平成30年10月21日(日)	東が丘・立川看護学部見学会 (国立病院機構立川キャンパス)	学部企画
平成30年11月3日(土) 平成30年11月4日(日)	医愛祭〈入試相談会〉(世田谷キャンパス)	
平成30年12月9日(日)	学部対象入試説明会 ～一般入試教科別対策講座～ 《英語・数学・化学・生物・国語》(五反田キャンパス)	一般入試受験者を主対象にした企画 (過去問題分析)
平成31年3月23日(土)	全学部対象ミニオープンキャンパス (五反田キャンパス)	新高3年生・2年生を対象とした企画

(入試広報部)

# 女子バスケットボール部が大学日本一の栄誉

本学女子バスケットボール部は全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）で、初優勝、女子バスケットボール大学日本一の栄誉を勝ち取りました。

本学女子バスケットボール部は平成17年4月の私たち東京医療保健大学開学から1年後の平成18年に5人（経験者3人、初心者2人）の部員で関東大学4部リーグとして産声を上げました。創部から7年後の平成26年には関東大学1部リーグに昇格、その後もチームモットーである「今できることのベストを尽くす」の信念を持ち続け、強豪校との対戦に向けた厳しい練習を日々積み重ねチームを成長させてきた創部11年目の今年度、第67回関東大学女子バスケットボールリーグ戦（平成29年8月26日～10月22日）での初優勝に続き、全国9ブロック（北海道、東北、北信越、関東、東海、関西、中国、四国、九州）からの代表強豪32大学によるトーナメント方式で争われた第69回全日本大学バスケットボール選手権大会（平成29年11月28日～12月3日）で初優勝、目標としていた女子バスケットボール大学日本一の栄誉を勝ち取りました。

なお、個人賞として、最優秀選手賞に津村ゆり子さん（医療情報学科4年次生）、優秀選手賞には王昕さん（医療情報学科4年次生）と岡田英里さん（医療情報学科2年次生）が受賞しました。

現在の部員は27人（4年次生7人、3年次生7人、2年次生5人、1年次生8人）、創部以来チームを牽引している恩塚亨監督はバスケット女子日本代表のスタッフを務め、現在、女子日本代表アシスタントコーチです。なお、卒業生7人がWJBL（バスケットボール女子日本リーグ）チームに所属しています。（プレーヤー6人、マネージャー1人）

女子バスケットボール部の頑張りを讃え、大学日本一の栄誉を

祝っていただき、更に、次年度を見据え、引き続き皆さまのサポート、応援をお願い申し上げます。

## （森田 菜奈枝キャプテンの談話）

今回、私達の目標である日本一を取ることができたのは沢山の方のご支援、ご声援があったお陰です。

最高の仲間と最高の景色が見れた事は一生忘れません。本当にありがとうございました。

（学生支援センター）



## 国際交流 International Exchange

### 平成29年度 全学合同海外研修実施予定

国際交流委員会では、平成29年度の全学合同海外研修を平成30年3月11日～19日の日程で実施いたします。今年度の参加学生は32名、内訳は医療保健学部看護学科9名、医療栄養学科6名、東が丘・立川看護学部17名（臨床看護学コース8名、災害看護学コース9名）となっています。団長は、医療保健学部医療栄養学科の齋藤さな恵講師で、その他の引率者は、原田准教授（看護学科）、加藤隆幸准教授（医療栄養学科）、加藤江里子助教及び堀田助教（東が丘・立川看護学部）、早野国際交流アドバイザーです。

今年度は、シャミナード大学とハワイ大学での研修をそれぞれ2日間実施し、1日は医療介護施設を訪問することになっています。大学では、高度シミュレータやその他の医療機器を使った演習授業、模擬患者を使ったシミュレーション演習授業、ハワイの伝統文



シムマンを使った事前学習風景

化と食生活、アメリカの看護師と管理栄養士の仕事、アメリカの在宅ケア実際などを学習する予定です。また、シャミナード大学では、学生交流の時間も予定されています。医療介護施設アロハナーシング&リハブでは、介護、リハビリ、ホスピス等の各サービスを見学し、入所者のアクティビティにも参加する予定です。

海外研修に向けた事前研修はこれまでに3回実施しています。学生はテーマを決めたグループワークを行い、またシムマンや医療機器を使ったオリエンテーション授業なども受けています。2月の事前学習では、海外の在宅ケアについての学習を前に、外部講師を招き日本における訪問看護、訪問管理栄養サービスの実情についても学ぶことになっています。結団式は3月7日に実施の予定です。

国際交流アドバイザー 早野 真佐子



## 「食文化論」特別講義について

医療栄養学科では、平成29年12月18日(月)に世田谷キャンパスA B 01教室において「食文化論」で外部講師による特別講義を行いました。講師は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都城発掘調査部 考古第2研究室研究員の 小田裕樹氏で、「食器・食具からみた日本古代の食文化」というテーマで、古代の食器について古墳時代から奈良時代の食器には大きな変化があり、それが東アジアの儀礼の変化の影響によるという刺激的な講演でした。

具体的には古墳時代の丸底の土器は手に持つものであり、それが奈良時代に平底になるのは、食器を置いて箸や匙で食べるという中国の食事様式を採用したことによるものであり、そのため土器の形も金属器を模倣した形であり、日本だけではなく朝鮮半島でも同様な傾向にあるという内容でした。今回は科学研究費助成の基盤研究(B)「古代食の総合的復元による食生活と疾病の関係」(研究代表者:三舟隆之)の特別講演も兼ねていたため、本学学生・教職員のほかにも駒澤大学や東海大学の教員・大学院生や、宮内庁や国分寺市・藤沢市教育委員会、市川市歴史博物館など、外部の考古学・歴史学関係者も多数集まり、レベルの高い講演会となりました。今後もこのような試みが続けていきたいと考えています。

## 編集 後記 Editor's note

本号では「開設目前の新学部」と銘打って、今年4月に東京医療保健大学の3番目の学部として開設する「千葉看護学部」、そして首都圏以外では初めて関西圏に開設し、4番目の学部となる「和歌山看護学部」の開設準備状況等について紹介しています。

昨年と同時期発行の春号で設置構想中であることをお伝えした両学部でしたが、この1年の間に大勢の関係者のご尽力を賜り、国の所要の認可申請等をクリアして無事に開設することが叶いました。

誌面の構成上あまり多くの紙幅を割けませんでした。和歌山看護学部についてはイメージ図だけで詳細が不明だった雄湊キャンパス校舎の改修状況を表紙写真でご覧いただきました。ここは、和歌山市内でも由緒と伝統ある小学校だったところで、地域のシンボルであるとともに、松下電器(現パナソニック)の松下幸之助氏が学んだ学校ということでも有名です。その雰囲気を残しつつも新しい高等教育の場として生まれ変わります。この校舎は今後も地域の方々にもご利用いただけるように考えてまいります。

また、一方の千葉看護学部の施設については独立行政法人地域医療機能推進機構(JCOH)の研修センターと同機構の

## 第104回保健師国家試験・第107回看護師国家試験に向けて

平成30年2月16日(金)に保健師国家試験、2月18日(日)に看護師国家試験が実施されます。今年度より新出題基準となり、旧基準と比べて大幅な追加や削除された出題項目もあり、出題傾向の変化に注目が集まっています。4年次生は昨年より複数回の学内模擬試験、クラス別対策講義、今年に入っても新年早々1月5日(金)から模擬試験と、少しずつ学習と習熟状況の確認を積み重ねてきました。看護学科教員もガイダンス、学習方法やメンタルサポートに関するコンサルテーションなど、全員合格を願い学生を支援してきました。残り数週間、あとは体調を整え、当日は学生一人一人の持てる力を出し切れるよう、祈っています。

## 助産学専攻科分娩実習について

- 平成29年7月から12月にかけて、東京大学医学部附属病院、総合母子保健センター愛育病院、東京慈恵会医科大学附属病院、稲城市立病院、荏原病院、湘南藤沢徳洲会病院、新百合ヶ丘総合病院、新横浜母と子の病院、東峯婦人クリニック、沖縄県立北部病院及び助産院において19名の学生が各10例の分娩介助(190例)を行うことができました。2月27日(火)には、実習先の臨床指導者の方々との実習協議会を開催し、次年度に向けての発展的交流を図る予定です。
- 妊娠中から分娩介助、産後1か月健診・家庭訪問まで受け持つ長期継続事例は、日曜・祭日・夜間も病院に駆けつけるなど、全学生が対象と密に関わり学習を深めました。その学習成果について個々の学生が研究視点も踏まえて振り返り、1月26日(金)に学内で開催した事例研究発表会において、学びの集大成として発表しました。
- 東峯婦人クリニックにおいて、集団への健康教育として、実際の妊婦及びご家族様を対象とした母親学級・両親学級を実施することができ、学生には大変貴重な経験となりました。妊産婦、実習先の病院及び助産院の皆様のご指導及びご協力に、心より感謝申し上げます。

船橋中央病院附属看護専門学校が併置される広大な建物を使用します。建築後19年ですから大規模な改修工事の必要もなく、そのままでも使用に耐え得る素晴らしい施設です。学生のための寮も完備していますが、暫くは看護専門学校生と本学の学生がともに学ぶこととなります。(施設の全貌は写真の1カットにとっても取まりません。昨年の春号表紙の左下に航空写真を掲載していますのでご参照ください。)

この2つの学部には毎年190人の学生を受け入れることとなりますが、既存の2つの学部の看護学科では既に300人を受け入れており、合計すると毎年490人の新入学生を受け入れ、看護職の育成を行います。

平成27年12月に行った開学10周年祝賀会において大学の第二章が幕を開けましたが、その第二章を象徴するにふさわしい発展の証と言えるのではないかと思います。

なお、本号ではもう一つ第二章にちなんで新しい動きとして「東京医療保健大学ビジョン」の策定について紹介しております。今後10年に向けて本学が進むべき教育・研究・社会貢献への取り組みの方向を明示しました。既に他大学の関係者など各方面からもご注目をいただいているものですので、ぜひ一読いただき、今後の展開にご期待いただけますと幸いです。(1)